

技術者・研究者の卵としての君たちへ

～科学的にもものを見る力を身につけよう～

時事刻々社会状況が変わり、津山高専の休講期間も延長となりました。来週 20 日（月）からは、ネット等を利用した遠隔授業が始まります。ますます自律した学習が求められます。

皆さんは、様々なメディアからコロナウイルス感染に関わる情報を得ています。「メディアから発信される情報が全て正しいものではない」ということは、すでにわかっていることだと思います。しかし、「たとえ情報が正しくても、人々を間違った行動へ駆り立てる」ことがあります。

最近起こったトイレトーパー騒動もその一つです。様々な分析の一つとして、あの騒動は、SNS の「トイレトーパーがなくなる」というデマのリツイートよりも、「トイレトーパーがなくなるというデマで店からトイレトーパーがなくなっている」という事実に基づいた情報が、さらに人々をトイレトーパーの購入に駆り立てた、という分析があります。しかし、これも要因の一つであり、もちろん別の要因も複雑に絡み合っていることでしょう。



皆さんは、津山高専の学生になりました。皆さんは、技術者の卵であり、研究者の卵としてこの学校へ入学しました。津山高専では、皆さんが技術者や研究者として孵化するよう導いていきます。そのために、社会に溢れている情報を冷静に選択し、その正確さや精度を見極め、自分はそのに対してどう分析し、どのように自らが行動するのか等々、研究法の基礎を身につけていくトレーニングをします。特に技術者は How を、そして研究者は Why を追求することが大切になります。

その一つとしてコロナウイルスに関わる分析や提言として、ノーベル賞受賞者の山中伸弥教授が HP を開設していますので紹介します。このサイトでは、情報をどのように得て、分析し、解釈し、それを一般の人々に発信するかまでのステップを学ぶことができます。例えば、情報に対して、「証拠（エビデンス）の強さによる情報分類」をしています。情報をあくまで仮説として、「証拠（エビデンス）があり、正しい可能性が高い情報」「正しい可能性があるが、さらなる証拠（エビデンス）が必要な情報」「正しいかもしれないが、さらなる証拠（エビデンス）が必要な情報」「証拠（エビデンス）の乏しい情報」の 4 段階に整理・分類しています。これはあくまで山中教授の基準による分類であり、別の研究者は別の見解を持つことでしょう。しかし、ここからノーベル賞につながる研究の手法を学ぶことができます。

「山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信」 <https://covid19-yamanaka.com/index.html>

津山高専で皆さんを教える先生たちは、全員が教員であると同時に研究者です。各分野の専門家です。しかし、先生たちが教えることが全て正しいわけではありません。あくまで証拠や仮説に基づいた内容を教えます。例えば、私は英語科教育法や認知言語学を専門としていますが、「英語表現 I」の授業では、皆さんが英語を使えるようになるだけでなく、なぜそうなるのか、どうすればより良くなるのかまで、問うていきます。

例えば、**There is a boy in the park.** は正しい文ですが、**There is the boy in the park.** とは言いません。なぜでしょう？ 疑問文や否定文の作り方は、be 動詞と一般動詞で異なるというのは本当でしょうか？ もっと簡単な考え方はないのでしょうか？ 前者は Why、後者は How を問うています。詳しくは授業で一緒に考えていきましょう。

皆さんは、今、学校へは通えてはいませんが、津山高専の学生、つまり技術者や研究者の卵であることを自覚しましょう。ただ暗記するだけに留まることなく、科学的なものの見方や考え方を学び、より深い学習を進めていきましょう！